

歯内療法の日進月歩

—変わらないものと変わりゆくもの—

講師

日本歯科大学附属病院総合診療科

佐藤 友則 先生 (84回卒)

学歴

平成7年3月 日本歯科大学新潟歯学部卒業 (84回卒)
平成7年4月 日本歯科大学大学院新潟歯学研究科入学
平成11年3月 同上修了

略歴

平成11年4月 日本歯科大学新潟歯学部 歯科保存学第1講座 助手
平成15年4月 日本歯科大学新潟歯学部 附属病院 総合診療科 助手
平成16年4月 日本歯科大学新潟歯学部 附属病院 総合診療科 講師
平成18年4月 日本歯科大学新潟病院 総合診療科 医長 (平成31年3月まで)
平成18年4月 日本歯科大学新潟病院 臨床研修副プログラム責任者併任
平成21年4月 日本歯科大学新潟病院 総合診療科 准教授 (平成31年3月まで)
平成25年4月 日本歯科大学新潟病院 臨床研修プログラム責任者併任
(令和6年3月まで)
平成31年4月 日本歯科大学新潟生命歯学部 歯科保存学第1講座 准教授
(令和6年3月まで)
令和6年4月 日本歯科大学附属病院 総合診療科 准教授 (総合診療科1所属)
(現在に至る)

学会活動

日本歯科保存学会 日本歯内療法学会
日本歯科医学教育学会 日本総合歯科学会

歯内療法の臨床では、複雑な解剖形態や様々な誘発因子が大きな障壁となることで、診断や処置に苦慮する事がしばしば認められます。日進月歩しながらも、今昔抱える問題も多い歯内療法では、前準備や無菌的操作、基本的操作の欠如で長期症例になっているものも少なくありません。一方で、コーンビームCTやマイクロスコープといった器具を使用した診査・診断や治療、MTAをはじめとした材料、各種器具の進歩、音波や超音波振動装置を併用した根管洗浄、歯根未完成歯のリバスクラリゼーションなど歯内療法を取り巻く環境、考えも変化してきており、教育面でもこれらが必須内容となってきました。そこで本講演では、これらを取り巻く環境の対応、注意点を交えながら、歯内療法の基礎的内容から日常臨床、潮流などをお話させて頂く予定です。